



がんの温熱療法(ハイパーサーミア)

高周波式ハイパーサーミアシステム 『アスクーフ8』



患者さん一人ひとりに合ったがん診療を実践すべく、がんの温熱療法 (ハイパーサーミア)を2022年10月に導入しました。

高周波電流(ラジオ波)で患部を加温しがん組織のみを壊死・縮小させることで治療します。また、他の治療と併せて治療することで、 治療効果を高めることができます。

特徵

● 他 の 治 療 と 併 用 が で き る

温熱によるがん細胞の破壊だけでなく、外科治療や化学療法、放射線治療などと併用することで、それぞれの治療効果を高めることができます。

●治療の適応範囲が広い

治療の適応範囲が広く、眼球・脳以外の部位の治療が可能です。また、 病巣の深さに合わせて、浅部から深部まで選択して治療を行うことがで きます。

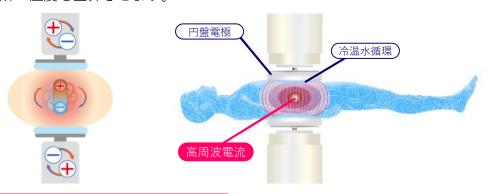
●身体に優しい治療

ほとんどの場合、副作用はありません。 副作用としては低頻度で熱傷、脱水症などが挙げられます。

がんの温熱療法(ハイパ=サーミア)

● ハ イ パ ー サ ミ ア に よ る が ん の 温 熱 治 療

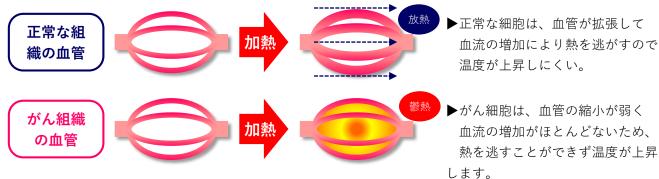
成人の身体の約65%は水でできています。ハイパーサーミアでは、円盤電極を身体に密着させ、極性の変わる交流電流を流すことで、体内の水分子が振動します。この振動によって発熱が起き、がんの局所の温度を上昇させます。



■ がん細胞は熱に弱い

人間の細胞は42.5°C以上に温度が上がると、急速に死滅します。

温熱治療で細胞を加温した際、正常な細胞は血管が拡張して血流が増加するとともに熱を逃がすことができますが、がん細胞は血管の縮小が弱く血流の増加がほとんどないため、熱を逃すことができずに鬱熱(うつねつ)します。この原理によって、正常な細胞にダメージを与えることなく、がん細胞だけが加温され死滅します。



■治療の適応範囲が広い

脳と眼球以外の口腔から下肢まで、身体のほとんどの部位、がんの種類、病巣の深さに適応できます。

また、病巣の深さに合わせて、浅部から深部まで選択して治療を行うことができます。

■身体に優しい治療

ほとんどの場合、副作用はありません。 副作用としては低頻度で熱傷、脱水症な どが挙げられます。

